

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
07	外国にルーツを持つ児童・生徒への 日本語学習支援プロジェクト

メンバー	[学 生] 阿部 明歩 / 大橋 恵那 / 紅野 茜 / 中井 希 / 晴山 寧乃 / 吉田 藍 / 渡邊 隆太郎
	[担当教員] 佐藤 香織

**【背景】**

外国にルーツを持つ児童への日本語教育は、日本語教育の領域における大きな課題の1つであり、函館の小中学校には日本語支援を必要としている児童(生徒)がいる。今年度は新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら支援を行った。

**【目的】**

児童(生徒)の日本語能力の向上を目指し、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況下でも行える日本語学習支援の教材づくりをすること。また、支援実施者の日本語教育の実践、地域の教育機関や日本語支援員との連携を図ること。

**【概要】**

新型コロナウイルス感染対策を徹底しつつ、実際に対面で日本語教育支援を行った。小学3年生の対象児童へは入り込み支援を行い、社会と算数の授業に参加した。アフガニスタンからの対象生徒へは前期は大学構内にて日本語学習支援を行い、後期からは中学校にて入り込み支援と取り出し支援を行った。入り込みでは、先生の指示や板書を簡単な日本語や英語に変換することで支援を行った。また、自宅で平仮名や日本語の復習ができるような教材を作った。取り出しでは児童(生徒)の苦手に合わせて教材づくりをした。

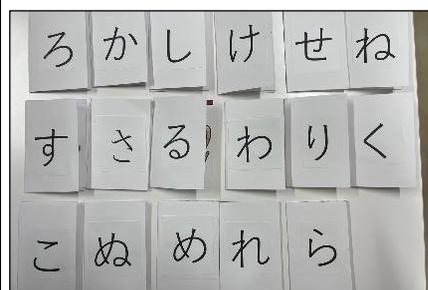
**【プロセスと成果】**

前期は、初めに日本語教育支援の実態を知るために、関連するシンポジウムの報告書を読み、それぞれ学んだことを共有し、基礎学習を行った。それと並行して4月から日本語支援を行った。支援内容としては、授業の入り込み支援の場合、読み書きの難しい漢字の補助、個人学習で困っていた時の補助、教師の指示の通訳、教科書の説明を通訳する、またはやさしい日本語に言い換える活動を行った。

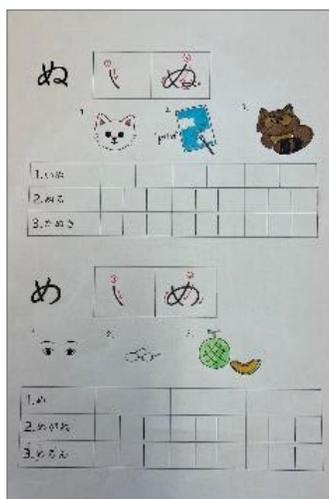
そのほかにも1年を通して、対象児童(生徒)の学習能力を考慮した教材づくりを行い、学校外でも日本語を楽しく学習してもらえるよう工夫した。

これらの活動の成果としては、対象児童(生徒)の精神的負荷を考慮した支援、対象児童(生徒)に楽しく日本語を学んでもらうための教材づくりを行うことができた点があげられる。教材づくりについては、対象児童(生徒)の好きなことや興味のあることを考えて教材にし、継続して日本語を学習してもらえるよう工夫して、実際に教材を使用して楽しく日本語を学習してもらえた。

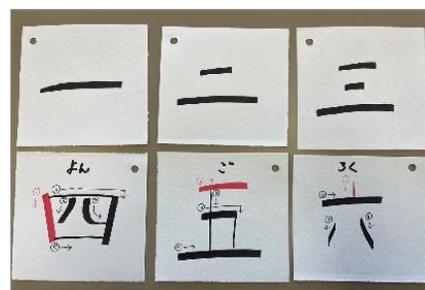
また、活動報告書を本プロジェクトのメンバーや対象児童(生徒)の通う学校と共有したことで、次回の支援に向けたスムーズな引き継ぎや準備を行うことが出来た点があげられる。



【ひらがな練習教材】



【紛らわしいひらがな練習プリント】



【数字の練習カード】

### 【総括と反省・今後の課題】

アフガニスタンから来た生徒に対して、前期は大学構内での日本語支援を行い、後期は2名がF中学校に通い始めたため、新たな環境に早く馴染めるように入り込み支援を行った。前期と後期を通して、中学校の支援では、本プロジェクトのメンバーの教育大生だけではなく、JTSやHIF合わせて20名以上が携わっているため、2人の支援を効果的かつ円滑に進めるには、支援者同士そして学校側との連携や意見交換が不可欠であることが分かった。また、在籍学校から支援者へ、そして支援者から学校への要望などもより活発に行うことが必要であると考えられる。

M小学校における支援では、前期と後期とも活動報告書を共有することで、次の支援へと円滑につなげることができた。支援者が対象児童のそばにいる時間が長いと、本人の精神的負荷になるだけでなく、クラスの日本人生徒もコミュニケーションやサポートの面で支援者を頼るようになってしまったため、教室を巡回したり教室後方から様子を見守るようにしたりした。

前期は算数と社会の入り込み支援を行っていたが、算数は得意教科であるため後期からは社会のみの支援を行った。社会などの専門用語の多い教科は、補助が必要であると感じる場面が多くなってきているため、教材や支援方法の工夫をすることが求められる。

今後の課題としては、各小学校・中学校の支援者の様子を観察・共有し、次の支援に活かすことも重要である。さらに、児童(生徒)本人と保護者のニーズを聞き取り、今後の支援の方向性を決める必要がある。特に教材づくりにおいて、対象児童(生徒)の学習進度や性格、目的に適した教材を作成していかななくてはならない。

### 【地域からの評価】

対面による支援や教材づくりを通して、連携機関の支援員の方からお褒めの言葉をいただいた。

「担当の先生のご指導の下、対象児童に対してモチベーションアップさせるため、興味をもたせるため、動画やリライト教材を作成したりして取り組んでいらっしゃる、いつも感心しております。十分に本人の助けになっていることでしょう」

### 【年間スケジュール】

4月～	日本語クラスのサポート (教育大call教室にて)
5月	入り込み支援 (H小学校、M小学校にて)
7月	動画教材作成
8月	中間発表会
10月～	入り込み支援 (H小学校、M小学校、F中学校にて)
11月	自作教材作成
12月	取り出しおよび入り込み支援 (K小学校にて)
1月	成果発表会
2月	成果報告書作成

